

授業科目	健康情報論	科目概要・形式	2単位30時間(14コマ) 講義科目	配当年次	博士前期1年次 期開講	オンライン参加	<input type="checkbox"/> ・不可
科目責任者	古川 照美						
担当者	中山 健夫 (非常勤・京都大学医学研究科)、中山 和弘 (非常勤・聖路加国際大学大学院看護学研究科)						
<b>1. 科目のねらい・目標</b>							
ヘルスコミュニケーションの理論と実践を体系的に理解する。ヘルスケア（医療介護現場）におけるコミュニケーションや意思決定、予防行動やヘルスプロモーションにおけるヘルスコミュニケーション/ヘルスリテラシーを考える。							
<b>2. 授業計画・内容</b>							
<p>中山 健夫 (4コマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康情報を入力・理解・評価・活用（意思決定、行動）する能力としてのヘルスリテラシーを理解する。</li> <li>疫学・根拠に基づく保健医療の基礎知識を学び、各種の健康・医療情報を適切な利用に役立てる。</li> <li>健康・医療に関する「益と害」に関する情報のコミュニケーションを巡る諸課題を理解する。</li> <li>ヘルスケアにおけるシェアード・ディジションメイキングとインフォームドコンセントの違いとそれぞれの役割を理解する。</li> </ul> <p>中山 和弘 (10コマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康情報を入力・理解・評価・活用（意思決定、行動）する能力としてのヘルスリテラシーの定義を把握し、医療の場とヘルスプロモーション（健康の社会的決定要因）の場におけるヘルスリテラシーの相違について理解する。</li> <li>ヘルスリテラシーの測定と評価の方法について尺度を利用して理解する。</li> <li>ヘルスリテラシーのある組織や社会をつくるために必要な科学的リテラシー（エビデンスとナラティブ）、メディアリテラシー（マスメディア、ソーシャルメディア）、文化リテラシーについて議論する。</li> <li>世界のヘルスリテラシーへの取り組みから日本での課題について検討する。</li> </ul>							
<b>3. 教科書、参考書</b>							
<p>中山健夫・藤本修平（監修）実践シェアード・ディジションメイキング改訂第2版（日本医事新報社） 2024  中山和弘. これからのヘルスリテラシー 健康を決める力 講談社 2022  福田洋・江口泰正編：ヘルスリテラシー：健康教育の新しいキーワード 大修館書店 2016.</p> <p>その他、参考書・論文は適宜紹介する。</p>							
<b>4. 成績評価方法</b>							
授業への参加態度、試験（ないしレポート）などにより総合的に評価する。							
<b>5. 受講要件</b>							
特になし							
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b>							
社会人が受講しやすいよう、オンライン受講も可とします。また、金曜日夜～日曜日に集中的に講義するなど配慮します。							
<b>7. その他</b>							
必要に応じて、オンデマンドでの後日受講も可とします。							